

官報

號外 昭和十六年二月六日

第七十六回帝國議會 貴族院議事速記録第九號

昭和十六年二月五日(水曜日)午前十時九分開議

議事日程 第九號

昭和十六年二月五日

午前十時開議

第一 陸軍軍法會議法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會

第二 海軍軍法會議法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會

第三 郵便貯金法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會

第四 民事訴訟法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會

第五 陪審法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 報告ヲ致サセマス

〔石橋書記官朗讀〕

一 昨三日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

二 商工會議所法第十四條ノ臨時特例ニ關スル法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十六回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

政府委員

企畫院部長 中島 清二君

同 小松 茂君

同 藤澤 威雄君

同

同

同

同

同

同

同

大藏省所管事務政府委員 坂口 芳久君

司法省所管事務政府委員 大竹武七郎君

司法書記官

昨四日各部ニ於テ常任委員ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ其ノ結果左ノ如シ

第二部

豫算委員光行次郎君ノ補闕トシテ織田萬君當選

第五部

豫算委員子爵大久保立君ノ補闕トシテ子爵大河内輝耕君當選

同日委員長ヨリ左ノ通分科擔當委員ヲ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ

豫算委員子爵大河内輝耕君ヲ第一分科擔當委員

豫算委員織田萬君ヲ第二分科擔當委員

同日民事訴訟法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 黑崎 定三君

副委員長 男爵中御門經民君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

昭和十六年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和十五年法律第七號中改正法律案

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社

社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

田名部運輸軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ關スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

富士身延鐵道株式會社及白根鐵道株式會社所屬鐵道買收ニ關スル法律案

大正九年法律第五十六號中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

民事訴訟法中改正法律案可決報告書

陪審法中改正法律案可決報告書

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ之ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

兵役法中改正法律案

陸軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案

海軍軍人軍屬違警罪處分例中改正法律案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十六回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省所管事務政府委員 入江誠一郎君

內務書記官 村田 五郎君

內務事務官 村田 五郎君

海軍省所管事務政府委員 保科善四郎君

海軍少將 保科善四郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、陸軍軍法會議法中改正法律案、日程第二、海軍軍法會議法中改正法律案、政府提出第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナト認メマス、阿南陸軍次官

(左ノ案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做フ)

陸軍軍法會議法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十六年二月二日

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿

陸軍大臣 東條 英機

陸軍軍法會議法中改正法律案

第八條 軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

一 高等軍法會議

二 軍軍法會議

三 師團軍法會議

四 合圍地軍法會議

五 臨時軍法會議

第九條 高等軍法會議、軍軍法會議及師團軍法會議ハ之ヲ常設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ編成シタル陸軍ノ部隊ニ必要ニ因リ之ヲ特設ス

第十條 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

軍軍法會議ハ軍司令官ヲ以テ長官トス

第十一條 第一號中「將官相當官、」ヲ削ル

第十二條 軍軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 軍司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ師團長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件ヲ除ク

二 軍管區内ニ在ル陸軍ノ部隊ニ屬スル者及其ノ部隊ノ長ノ監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ其ノ部隊ニ軍法會議ヲ設ケサル場合ニ限ル

三 軍管區内ニ在リ又ハ軍管區内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人

ノ所屬部隊ノ軍法會議管區内ニ在ラサル場合ニ限ル

第十三條

師團軍法會議ハ師團長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件ニ付管轄權ヲ有ス

師團軍法會議ハ前項ノ外左ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

一 師管内ニ在ル陸軍ノ部隊ニ屬スル者及其ノ部隊ノ長ノ監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ其ノ部隊ニ軍法會議ヲ設ケサル場合ニ限ル

二 師管内ニ在リ又ハ師管内ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議師管内ニ在ラサル場合ニ限ル

第十四條

刑除

第十六條 臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ其ノ部下部隊ニ軍法會議ヲ設ケタル場合ハ當該部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件ヲ除ク

二 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ作戦地域、管轄地域若ハ守備地域ニ在リ又ハ此等ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議此等ノ地域ニ在ラサル場合ニ限ル

三 臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ作戦地域、管轄地域又ハ守備地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第三十二條中「將校ヲ」兵科將校ニ改ム
第四十四條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム

卒」ヲ「兵」ニ改ム
第四十七條第三項中「減スルコトヲ得」ノ下ニ「戰時事變ニ際シ高等軍法會議以外ノ常設軍法會議ニ付亦同シ」ヲ加フ

第四十九條 高等軍法會議以外ノ軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ
一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官三人又ハ佐官二人尉官二人

二 被告人尉官又ハ准士官ナルトキハ佐官二人尉官二人
三 被告人佐官ナルトキハ將官一人佐官三人又ハ將官二人佐官二人

四 被告人將官ナルトキハ將官四人前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス
交通斷絶シタル地ニ在ル軍法會議ニ於テハ被告人ト同等以上ノ判士ヲ以テ裁判官ト爲スコトヲ得

第五十條中「將校」ヲ「兵科將校」ニ改ム
第五十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ
一 被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官一人
二 被告人尉官又ハ准士官ナルトキハ佐官三人又ハ將官一人佐官二人

三 被告人佐官ナルトキハ將官一人佐官一人又ハ將官三人
四 被告人將官ナルトキハ將官三人前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十二條中「少尉」ヲ「尉官」ニ、「下士」ヲ「下士官」ニ改ム
第五十三條中「將校相當官」ヲ削リ「下士」ヲ「下士官」ニ、「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第五十四條第一項中「下士」ヲ「下士官」ニ、「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム

第六十三條中「將校」ヲ「兵科將校」ニ改ム
第六十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

軍司令官ハ其ノ部下部隊ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公訴ヲ指揮監督シ其ノ部下部隊ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ト牽連スル事件及當該部隊内ノ犯罪事件ニ付捜査ヲ指揮監督ス

第七十條中「將校」ヲ「兵科將校」ニ改ム
第七十三條第一項中「下士」ヲ「下士官」ニ改ム

第七十七條第一項中「憲兵卒」ヲ「憲兵兵」ニ改ム
第八十八條第一號中「又ハ將校相當官」ヲ削ル

第八十五條第四項中「陸軍下士官」ヲ「陸軍ノ下士官又ハ兵」ニ改ム
第九十五條第六項中「陸軍下士官」ヲ「陸軍ノ下士官若ハ兵」ニ改ム

第九十七條第二項中「海軍軍令部長」ヲ「軍令部總長」ニ改ム
第九十八條中「辯護人」ノ下ニ「辨理士、計理士」ヲ加フ

第二百二十三條第二項中「下士官」ヲ「陸軍ノ下士官若ハ兵」ニ改ム
第二百三十五條第二項中「海軍軍令部長」ヲ「軍令部總長」ニ改ム

第二百三十七條中「辯護人」ノ下ニ「辨理士、計理士」ヲ加フ
第三百九條第一項及第三百三十一條第一項第三號中「被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ」ノ下ニ「若ハ其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノ他ノ管轄軍法會議ニ移送スルヲ相當トスルモノナルトキ」ヲ加フ

第四百十八條中「師團軍法會議」ヲ上ニ「軍法會議又ハ」ヲ加フ
第四百五十九條第二項中「師團軍法會議」ノ上ニ「軍法會議若ハ」ヲ加フ

第四百六十五條、第四百八十七條及第四百九十一條中「師團軍法會議」ノ上ニ「軍法會議又ハ」ヲ加フ

第五百五十九條中「樺太及關東州」ヲ「樺太、關東州及南洋群島」ニ改ム
第五百六十條中「臺灣及關東州」ヲ「臺灣、關東州及南洋群島」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
大正十年法律第八十六號、同年法律第八十七號及同年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リ設ケラレタル朝鮮軍法會議及臺灣軍法會議ハ之ヲ第九條第一項ノ改正規定ニ依リ軍法會議トス

本法施行ノ際現ニ存スル特設軍法會議ハ之ヲ第九條第三項ノ改正規定ニ依リ臨時軍法會議トス
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

本法施行前管轄權ヲ有スル事件ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ本法ニ依リ管轄權ヲ有セザルトキト雖モ其ノ軍法會議之ヲ審判ス

本法施行ノ際現ニ公判中ノ事件ニ付テハ裁判官タル判士ノ區別ハ仍從前ノ例ニ依ル
海軍軍法會議法中改正法律案
右
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十六年二月二日
內閣總理大臣 公爵近衛 文麿
海軍 大臣 及川古志郎

海軍軍法會議法中改正法律案
海軍軍法會議法中左ノ通改正ス

第十一條第一號中「將官相當官」ヲ削ル
第四十七條第三項中「減スルコトヲ得」ノ下ニ「戰時事變ニ際シ高等軍法會議以外

ノ常設軍法會議ニ付亦同シヲ加フ
第七十三條第一項中「下士」ヲ「下士官」ニ改ム
第七十五條中「將校」ノ下ニ「又ハ將校相當官」ヲ加フ
第七十七條第一項中「憲兵卒」ヲ「憲兵兵」ニ改ム
第七十九條第二項中「海軍軍令部長」ヲ「軍令部長」ニ改ム
第九十八條中「辯護人」ノ下ニ「辨理士、計理士」ヲ加フ
第二百三十五條第二項中「海軍軍令部長」ヲ「軍令部長」ニ改ム
第二百三十七條中「辯護人」ノ下ニ「辨理士、計理士」ヲ加フ
第三百九條第一項及第三百三十二條第一項第三號中「被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セザルモノナルトキ」ノ下ニ「若ハ其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノ他ノ管轄軍法會議ニ移送スルヲ相當トスルモノナルトキ」ヲ加フ
第五百五十九條中「樺太及關東州」ヲ「樺太、關東州及南洋群島」ニ改ム
第五百六十條中「臺灣及關東州」ヲ「臺灣、關東州及南洋群島」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニ亦之ヲ適用ス

之ヲ設クルコトト致シマシテ、且之ニ伴ヒ特設軍法會議ノ種類ヲ、合圍地軍法會議及臨時軍法會議ノ二ト致シマシテ、是等各軍法會議ノ管轄ニ關スル規定ヲ整備セムトスルモノデゴザイマス、其ノ第二ハ、軍ニ軍法會議ヲ置キマスル外、其ノ軍ノ轄下部隊ノミナラズ、師團ニモ軍法會議ヲ置キマスノノナラズ、級ノ關係ハ外地ニモ生ジマスノデ、其ノ上級軍司令官ニ對シテ部下部隊ノ軍法會議ノ事件ニ付、公訴捜査ノ指揮監督權ヲ認メマシテ、以テ軍隊統率權ト軍司法權トヲ緊密ニ調整運用セシムトスルモノデゴザイマス、其ノ第二ハ、事變後各般ノ事情ヨリ致シマシテ、判士ノ召集困難ヲ加ヘ、事件處理ニ支障ヲ招キマスヤノ嫌ガゴザイマスノデ、戰時事變ニ際シマシテハ、高等軍法會議以外ノ常設軍法會議ニ於キマシテ、特設軍法會議同判士二名ヲ減ジ得ルコトト致シ、又判士ノ區別ヲ將官、佐官等ノ階級群ヲ以テ示シマス規定ニ改メマシテ、以テ事件處理ノ圓滑ヲ期セムトスルモノデゴザイマス、其ノ第四ハ、軍法會議間ノ事件送致ニ關スル規定ヲ調整セムトスルモノデゴザイマス、以上ガ本法律案ヲ提出スルニ至リマシテ理由ノ要旨デゴザイマス、ドウカ御審議ノ上、速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官
○政府委員(豊田貞次郎君) 豊田海軍次官

ナリマシタノデ、戰時事變中ニ限リマシテ、高等軍法會議以外ノ常設軍法會議ニ於キマシテモ、特設軍法會議ノ例ニ倣ヒマシテ、判士二名ヲ減ジ得ルコトニ致シタノデゴザイマス、其ノ第二ハ、現行法ニ於キマシテハ、海軍將校ノミガ捜査機關トシテ海軍司法警察官ノ職務ヲ行ヒ得ルコトトナツテ居ルノデアリマスルガ、之ヲ將校ノミニ限定致シマスルコトハ、實際上不便ヲ生ジマスノデ、將校同相當官ニ對シマシテモ、將校ト同様ノ權限ヲ附與セムトスルモノデゴザイマス、其ノ第三ハ、海軍軍法會議間ノ事件送致ニ關シマスル規定ガ、稍、嚴格ニ過ギマスノデ、之ヲ緩和セムトスルモノデゴザイマス、其ノ第四ハ、外地ニ於キマスル海軍軍法會議法ノ運用ニ關シマシテ缺陷ガゴザイマスノデ、之ヲ整備セムトスルモノデゴザイマス、以上申述ベマシタ四ツノ主ナル理由ニ依リマシテ、本改正法律案ヲ提出致シタノデゴザイマス、何卒速カニ御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望致シマス、終リ

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ陸軍軍法會議法中改正法律案外一件ハ、十五名ノ特別委員トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スル動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセスカ
○異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
○近藤書記官朗讀
陸軍軍法會議法中改正法律案外一件特別委員
公爵二條 弼基君 侯爵井上 三郎君
伯爵山本 清君 子爵今城 定政君
子爵松平 保男君 子爵大島陸太郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
○近藤書記官朗讀
陸軍軍法會議法中改正法律案外一件特別委員
公爵二條 弼基君 侯爵井上 三郎君
伯爵山本 清君 子爵今城 定政君
子爵松平 保男君 子爵大島陸太郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
○近藤書記官朗讀
陸軍軍法會議法中改正法律案外一件特別委員
公爵二條 弼基君 侯爵井上 三郎君
伯爵山本 清君 子爵今城 定政君
子爵松平 保男君 子爵大島陸太郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
○近藤書記官朗讀
陸軍軍法會議法中改正法律案外一件特別委員
公爵二條 弼基君 侯爵井上 三郎君
伯爵山本 清君 子爵今城 定政君
子爵松平 保男君 子爵大島陸太郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス
○近藤書記官朗讀
陸軍軍法會議法中改正法律案外一件特別委員
公爵二條 弼基君 侯爵井上 三郎君
伯爵山本 清君 子爵今城 定政君
子爵松平 保男君 子爵大島陸太郎君

河井 彌八君 村上 恭一君
内田 重成君 男爵山中秀二郎君
田口 弼一君 男爵井上 清純君
男爵關 義壽君 遠藤 柳作君
岩元 達一君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第三、郵便貯金法中改正法律案、政府提出、第一讀會、村田遞信大臣
郵便貯金法中改正法律案
右
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十六年二月二日
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
拓務大臣 秋田 清
遞信大臣 村田 省藏

郵便貯金法中改正法律案
郵便貯金法中左ノ通改正ス
第三條第一項中「十錢」ヲ「五十錢」ニ、「二千圓」ヲ「三千圓」ニ改ム
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
○國務大臣(村田省藏君) 只今議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申上迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ有ラユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收増加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ニ付キマシテハ、最モ普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト之ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ、最高二千圓迄ニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト決メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高

○國務大臣(村田省藏君) 只今議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申上迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ有ラユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收増加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ニ付キマシテハ、最モ普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト之ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ、最高二千圓迄ニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト決メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高

○國務大臣(村田省藏君) 只今議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申上迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ有ラユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收増加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ニ付キマシテハ、最モ普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト之ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ、最高二千圓迄ニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト決メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高

○國務大臣(村田省藏君) 只今議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申上迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ有ラユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收増加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ニ付キマシテハ、最モ普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト之ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ、最高二千圓迄ニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト決メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高

○國務大臣(村田省藏君) 只今議題トナリマシタ郵便貯金法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ趣旨ヲ御説明申上ゲマス、時局下財政經濟政策遂行ノ圓滑ヲ期スル上ニ於テ、國民貯蓄ガ如何ニ重要ナル役割ヲ擔ツテ居ルカト云フコトハ、改メテ申上迄モナイ所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、事變以來國民貯蓄ノ獎勵ニ有ラユル機關ヲ動員致シマシテ、預金ノ吸收増加ニ努メテ居ルノデアリマスガ、此ノ郵便貯金ニ付キマシテハ、最モ普遍的ナル國民貯蓄ノ實行機關トシテ、一段ト之ガ機能ノ發揚ニ努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、然ルニ御承知ノ如ク、現在郵便貯金ノ一人ノ預金額ハ、最高二千圓迄ニ制限セラレ、又其ノ最低額ハ十錢ト決メラレテ居ルノデアリマス、此ノ最高

最低ノ制限額ハ、最近ニ於ケル國民所得乃至貯蓄力ノ増進狀況カラ見マシテモ、亦貯蓄獎勵上ノ必要カラ見マシテモ、低キニ失スルモノト認メラレマスルノデ、最高制限額二千圓ヲ三千圓ニ、又最低預入額十錢ヲ五十錢ニ引上ゲマシテ、國民經濟ノ實情ニ即應セシメ、國民貯蓄ノ増進ヲ圖ルコトト致シタイト存ズル次第デゴザイマス、事變ノ長期化ニ伴ヒマシテ、國民貯蓄ノ獎勵ハ、一層之ヲ徹底強化スルノ必要ヲ痛感セラレラドアリマス、何卒御審議ノ上、速カニ御協賛アラムコトヲ希望スル次第デアリマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御質疑ガナレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔白木書記官朗讀〕

郵便貯金法中改正法律案特別委員

- 公府島津 忠承君 子爵秋元 春朝君
- 八田 嘉明君 建部 遯吾君
- 男爵杉溪 由言君 男爵北大路信明君
- 橋本圭三郎君 野田六左衛門君
- 柴田兵一 郎君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第四、民事訴訟法中改正法律案、日程第五、陪審法中改正法律案、政府提出、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス、委員長黒崎君

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ做ラフ〕

民事訴訟法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年二月四日

委員長 黒崎 定三
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

陪審法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十六年二月四日

委員長 黒崎 定三
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔黒崎定三君演壇ニ登ル〕

○黒崎定三君 只今議題ト相成リマシタ民事訴訟法中改正法律案及陪審法中改正法律案ノ委員會ノ經過結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ昨日開會致シマシテ、正副委員長ノ選舉ヲ行ヒタル後、引續キ會議ヲ開キマシテ審議ヲ進メタルデゴザイマス、各委員諸君ノ熱心ナル討論ガ行ハレタノデアリマス、詳細ナル討論ニ讓ルコトト致シマシテ、審議ノ經過ニ於テ行ハレマシタ質疑應答ノ主ナルモノノ概要ヲ申上ゲタイト思ヒマス、先ヅ民事訴訟法中改正法律案ニ關シマシテ、其ノ改正ノ第一點デアリマスル競賣手續ニ付テ、特例ヲ認メマスル執行裁判所ノ職權ニ依ル裁判ニ對シテ、不服ノ申立ヲ許シテ居リマセヌカガアリマスガ、其ノ理由ヲ質シタル處、此ノ改正ノ趣旨ハ、國家公益ノ目的カラ特例ヲ認メタノデアルカラ、此ノ裁判ニ對シテ不服ノ申立ヲ許スト云フコトハ不適當デアルト考ヘタト云フ答辯デアリマシタ、尙同法中ノ改正ノ第一點デアリマスル再競賣ノ反覆ト云フ事例ニ付キマシテ、本改正案ガ狙ッテ居リマスルヤウナ理由ニ基キマスルモノノ外、唯徒ラニ競賣手續ノ完結ヲ遲延セシムル目的カラ、故ラニ再競賣ノ反覆ヲナスト云フヤウナ弊害ハナイデアラウカ、若シアラバ、是亦是正セラルベキ筋合デハナカラウカト云フ尋ネガアリマシタ處、政府委員ノ御答辯デハ、司法省ニ於テ調査致シマシタル事例ニ依リマスルト、本案ノ改正ニ依ッテ、是迄行ハレテ居リマシタ再競賣ノ反覆ト云フモノノ大部分ハ、除去是正セラレ見込デアルト云フ御答辯デゴザイマシタ、次ニ

陪審法中改正法律案ニ關シマシテ、政府ノ方カラ御示ニナリマシタ陪審事件ノ件數調ニ依リマスルト、陪審法施行以來今日迄ノ實績ハ、陪審ノ判定ニ附セラレマシタ事件ガ甚ダシク少數デアリマスノミナラス、年ヲ逐ツテ減少ノ傾向ヲ辿ッテ居ル事實ガ示サレテ居ルノデアリマス、此ノ事實カラ致シマスルト、一ツニハ折角出來タ陪審法デアアルノデアリマスカラ、モツト多ク陪審ノ判定ニ附セラルベキ事件ガアルヤウニ、即チ事件ノ増加ヲ來スヤウナ結果ヲ見ルヤウニ、法律ヲ改正スルト云フコトモ考ヘラレナイデアラウカ、同時ニ又地方ニ於キマシテハ、此ノ事件件數ノ減少カラ致シマシテ、陪審制度ハ我が國情ニ相應シクナイト云フ風ニモ考ヘラレラレ餘地ガアルノデアアルカラ、或ハ陪審法ヲ廢止スル、廢メテシマト云フコトガ考ヘラレラレノデハナカラウカト云フ質疑ガアツタノデアリマス、政府ノ方デハ、今陪審法ヲ改正シマシタ處デ、其ノ改正ノ爲ニ陪審事件ガ増加スルト云フ風ニハ考ヘラレナイ、更ニ反對ニ、然ラバ陪審法ヲ廢止スルト云フ考ヘニ付テハ、兎ニ角現行陪審法ガ出來マシタニ付キマシテハ、相當ニ研究ガ重ネラレ、論議ガ盡サレテ來タ歴史ヲ持ッテ居ルモノデアリマシテ、而モ陪審法實施以來今日ニ至リマスル期間ノ經過ハ、マダ十年餘リニシカナッテ居リマセヌカ、此ノ期間ニ於ケル實績タケカラ見テ、今直チニ陪審法ヲ廢止スルト云フ考ハ、持ッテ居ナイト云フ御答辯デゴザリマシタ、實疑ヲ終リマシテ、討論ニ入り、採決ヲ致シマシタル處、兩案共原案通りニ全會一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、右御報告申上ゲマス

- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス
- 子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
- 子爵秋田重季君 贊成
- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵ノ勸議ニ御異議ゴザイマセヌカ
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス
- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 兩案ノ第三讀會ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス
- 副議長(侯爵佐佐木行忠君) 明後七日午前十時ヨリ開會致シマス、議事日程ハ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
- 午前十時三十六分散會